

平成 27 年(2015)度事業報告書

市民ボランティアネットワーク石津川に鮎を

1、事業期間

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

2、事業の概要と成果

市民ボランティアネットワーク石津川に鮎を は 鮎をシンボルとして、人々に身近な川を取り戻そうと、大阪府堺市にある母なる川「石津川」とその水系を対象として、個別の NPO などが行ってきた活動を連携して進めるために、平成 17 年 2 月堺市内で結成された緩やかな団体・個人のネットワーク組織である。

活動拠点を堺市総合福祉会館 2 階市民活動サポートセンターにおき、メールボックスやロッカーなどを借り受け、「石津川に鮎を」の事務局所在地もここに定めている。

これまで例会の開催やイベントの開催、各種イベントへの参加、各種の PR 活動、アドプトリバーの推進、小学校総合学習への出前講座、石津川におけるフォーラムの開催などを行ってきた。

神石地区剣先(石津川、百済川合流地点)では、環境改善に主導的な役割を果たし、石津鮎講座を開始し、河川ウォッチングや生物調査、水質調査などと合わせて学術的に石津川に関する知見を得る一方で、河川清掃にも活動の域を広げることに挑戦してきた。

平成 21 年 5 月に初めて堺市の定期調査で鮎が発見されたのを機に、一気に活動のモチベーションがあがった。思いのほか早いペースで鮎が戻ってきており、活動のさらなる進展が期待されるようになった。

平成 26 年には長年の懸案であった、宮下町の四手湯井堰に水辺の小わざ利用した魚道が完成し、さらに上流に鮎を始めとした生きものが遡上することを期待して活動が活発になっている。

またホームページの運営を行い、会や石津川の様子などを発信する一方、FB(フェイスブック)による発信にも手懸けている。

3、事業の実施状況

主な平成 27 年度事業の実施状況を以下に示す。

1. 定例会・企画会議の開催

会の活動を活性化させるため、毎月 1 回 定例会を開き、今後の活動についての意見の調整、各種研修会、イベントの企画・計画などを行った。また必要に応じて別途、企画会議・事務局会議を開催した。

2. 石津川水系における生き物調査

○1/17sun 法道寺川・第 2 豊田川にて生物調査を実施した。

3. 多自然川づくりの調査・研究

○4/29wed～5/10sun 石津川・四手湯井堰し で ゆ い げ きに新設された魚道でアユの遡上調査を行った。

期間中魚道に設置した捕獲網に、4 個体のアユ、その他、モロコ、モツゴ、ヌマチチブ、ウキゴリ、ゴクラクハゼの 5 種類の魚類とテナガエビ、モクズ ガニが入り、アユが魚道を遡上したことが確認できた。

(5/23sat, 5/24sun 追加調査)

4. 川の清掃活動

○6/7sun 12/6sun アドプトリバー・鶴田町（鶴田町自治会、市民ボランティアネットワーク石津川に鮎をで構成）を大阪府鳳土木事務所協力のもと実施した。秋に同志である丸山氏、平田氏を相次いで亡くし、‘鍋’は無くなったが、鶴田町自治会の好意で飲み物などが提供された。丸山氏の後継として、自治会長・副会長が定例会に継続参加。

5. イベントによる啓発・広報活動

○5/30sat10～12:00 大津川（牛滝川・槇尾川合流点）にて開催し、投網や追い込みによる水生生物観察や缶バッチ製作などが行われた。会員の太田氏が生物指導。

○7/25sat 私の水辺泉北地域交流会体験学習 in 槇尾川（上流、和泉市仏並町）に参加。

○1/23sat 泉北府民センターで行われた「私の水辺大発表会泉北地域交流会（水からつながる何でも博覧会）（主催：私の水辺泉北地域交流会実行委員会、事務局：大阪府鳳土木事務所）」に参加した。会として、パネルや電子パネル（PC&プロジェクタ）と石津川の生きもの展示、魚釣りゲームを行った。ネットワークからは、葦船学校が同時出展した。

6. シンポジウムの開催

○2/13sat シンポジウム（これまでの歩みとこれからのビジョン）を堺市総合福祉会館で実施した。

7. その他、他団体等より協力依頼のあったもので、本会の趣旨に合意し、実現可能な活動

○ホームページ等の管理

会員相互の情報交換をより効率よく行うため、また本会の活動を広く PR するため、インターネット上にホームページを平成 18 年度に開設している。（ヤフーの HP サービス期限切れのため、新たに FC2 に設置）<http://ishizuayu.web.fc2.com/>

以上